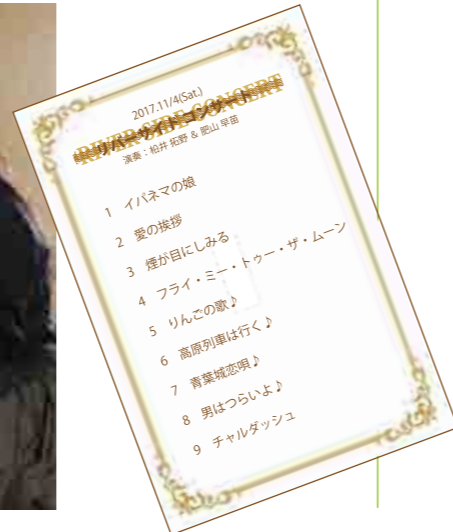


5か月ぶりにリバーサイドコンサートが
講堂ホワイエに帰ってきました。

青空が広がる気持ちのよい午後、ボサノバの名曲「イパネマの娘」で久々のリバーサイドコンサートは始まりました。サクソスの柀井拓野さん、ピアノの肥山早苗さんのアンサンブルです。続いてクラシックの小品「愛の挨拶」。『サクソスは日本でいえば幕末のころ、ベルギーのサクソスさんが作った比較的新しい楽器』と柀井さんの説明。ジャズアレンジで「煙が目にしみる」「フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン」をしつとりと演奏。そして会場とのコラボレーションとして「りんごの歌」「高原列車は行く」など昭和歌謡のメドレー、皆さん声を合わせて歌いました。アンコール前の「チャルダッシュ」では息継ぎなくサクソスを吹き続ける循環呼吸の演奏法を披露、会場から盛んな拍手が沸き起こりました。「チャルダッシュ最高！もう一度聴きたいです！」とお客様の声。皆様笑顔で会場を後にしました。12月はマリリンさんのピアノ弾き語りによるクリスマス特集です。ぜひ、お出かけください。



雨風強い台風の日でしたが、
室内には穏やかなギターのアレンジが
奏でる音がこだましました。

若手ギタリストの稗田隼人さんは、クラシックギター・コントラバス・ウクレレと何でもこなす人。それに作曲家、編曲家の顔も持つ。オープニングは、「愛のロマンス」（映画「禁じられた遊び」のテーマ曲）から静かに始まりました。稗田さんのギターのタッチは、爽やかな風貌にマッチして軽やか。曲は、クラシックギターの名曲「アルハンブラの思い出」ばかりではなく、「モーツァルトの魔笛の主題と変奏」「ベネズエラワルツ」「湯の町エレジー」（以上ソロ）、「花のワルツ」「リベルタンゴ」やオリジナル曲「旅」「雨上がりのボサ」（以上共演）など多岐に渡りました。花を添えてくれたのは、ヴァイオリンの西浦詩織さんとフルートの森千織さん。稗田さんとの息もピッタリ。ギターとヴァイオリンの組み合わせはほとんどないそうです。稗田さんに、ギターの魅力とは何かを尋ねると、「ひとりでもアンサンブルでもこなせるところ」という応えが返ってきました。（広報ボランティア 文・写真・松尾）

